

沖縄県における麻疹流行と未解決の課題

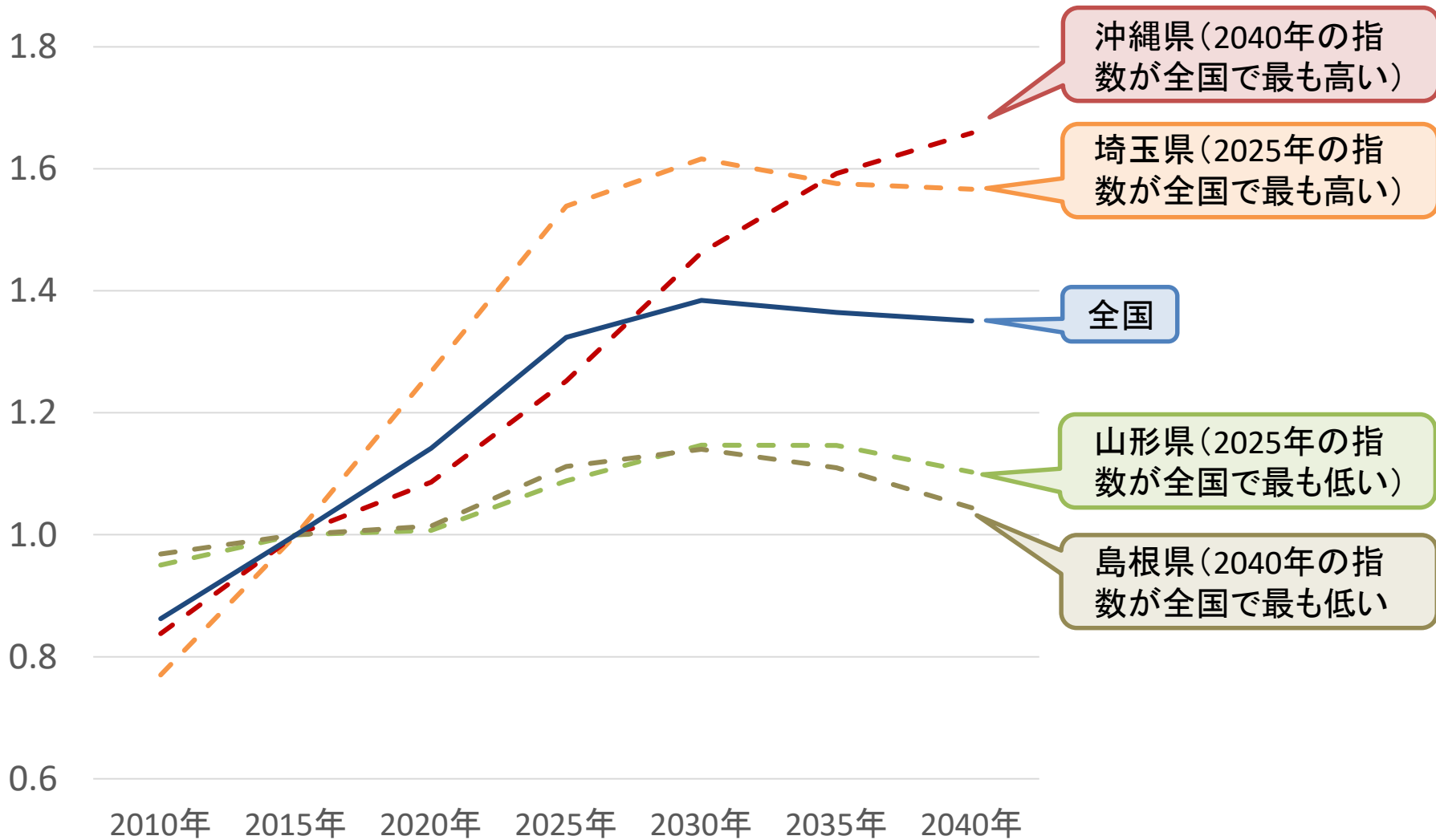
結果オーライとしないために



高山 義浩

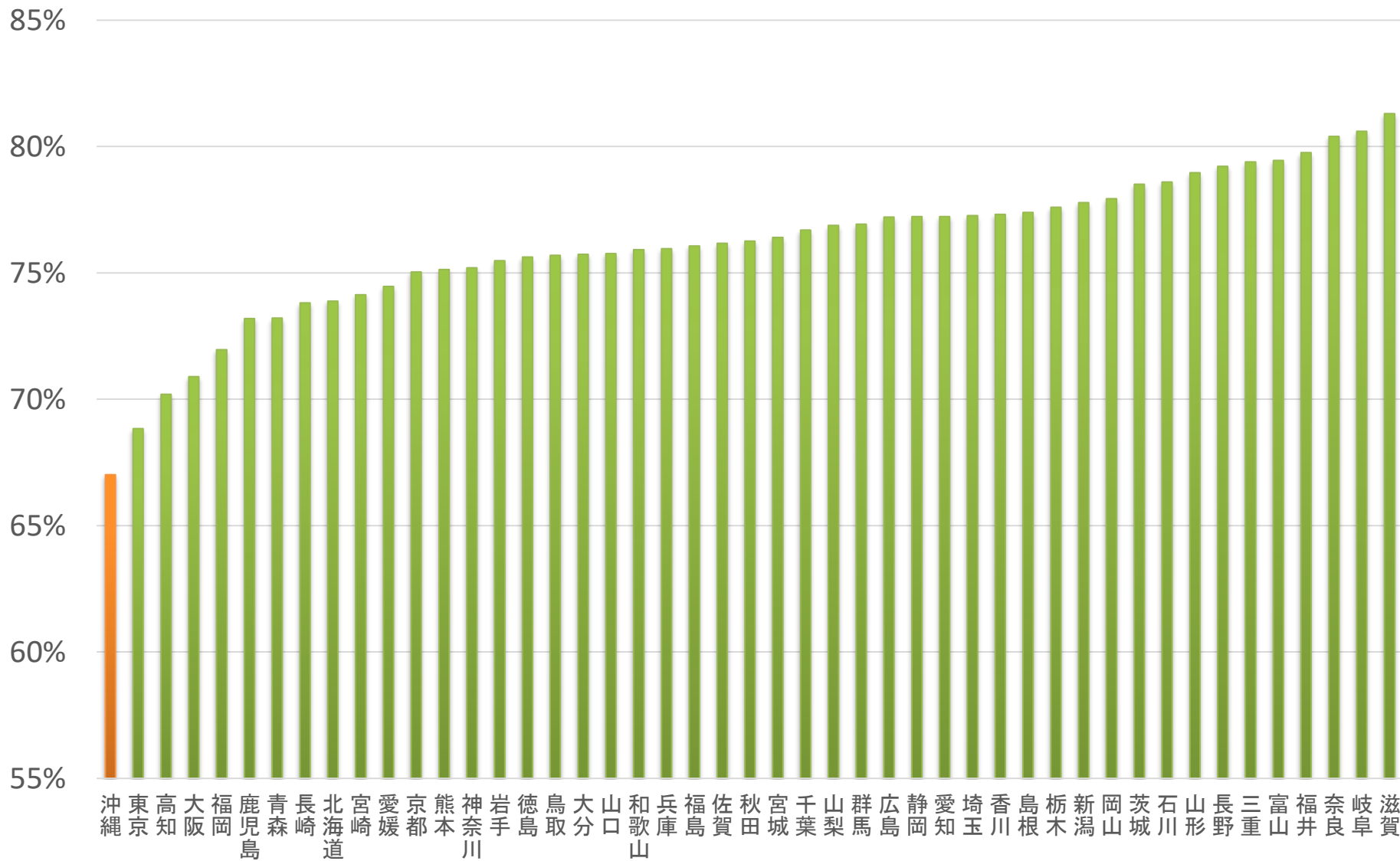
75歳以上人口の将来推計

(2015年の人口を1.0としたときの指数)

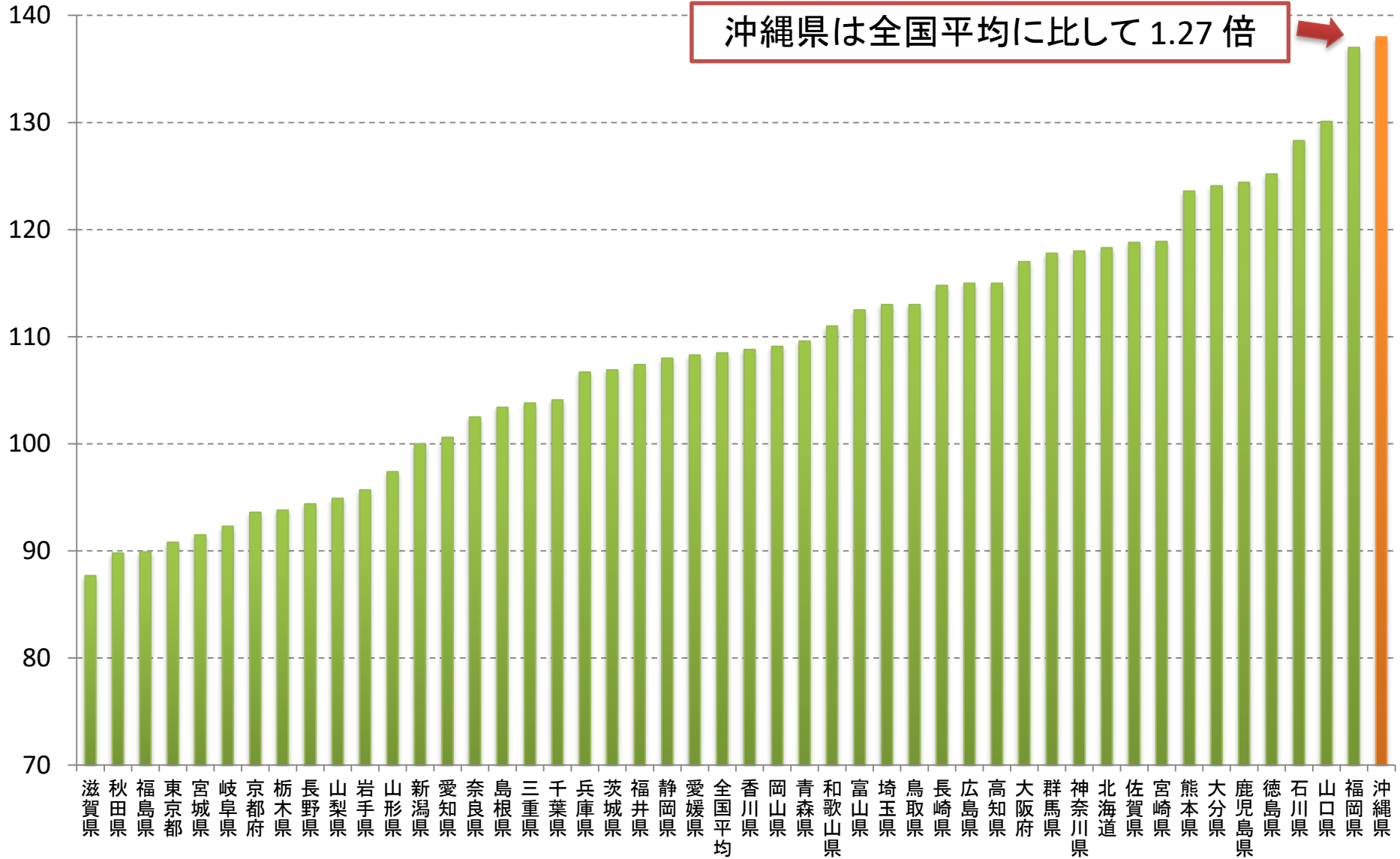


資料: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25(2013)年3月推計)」より作成

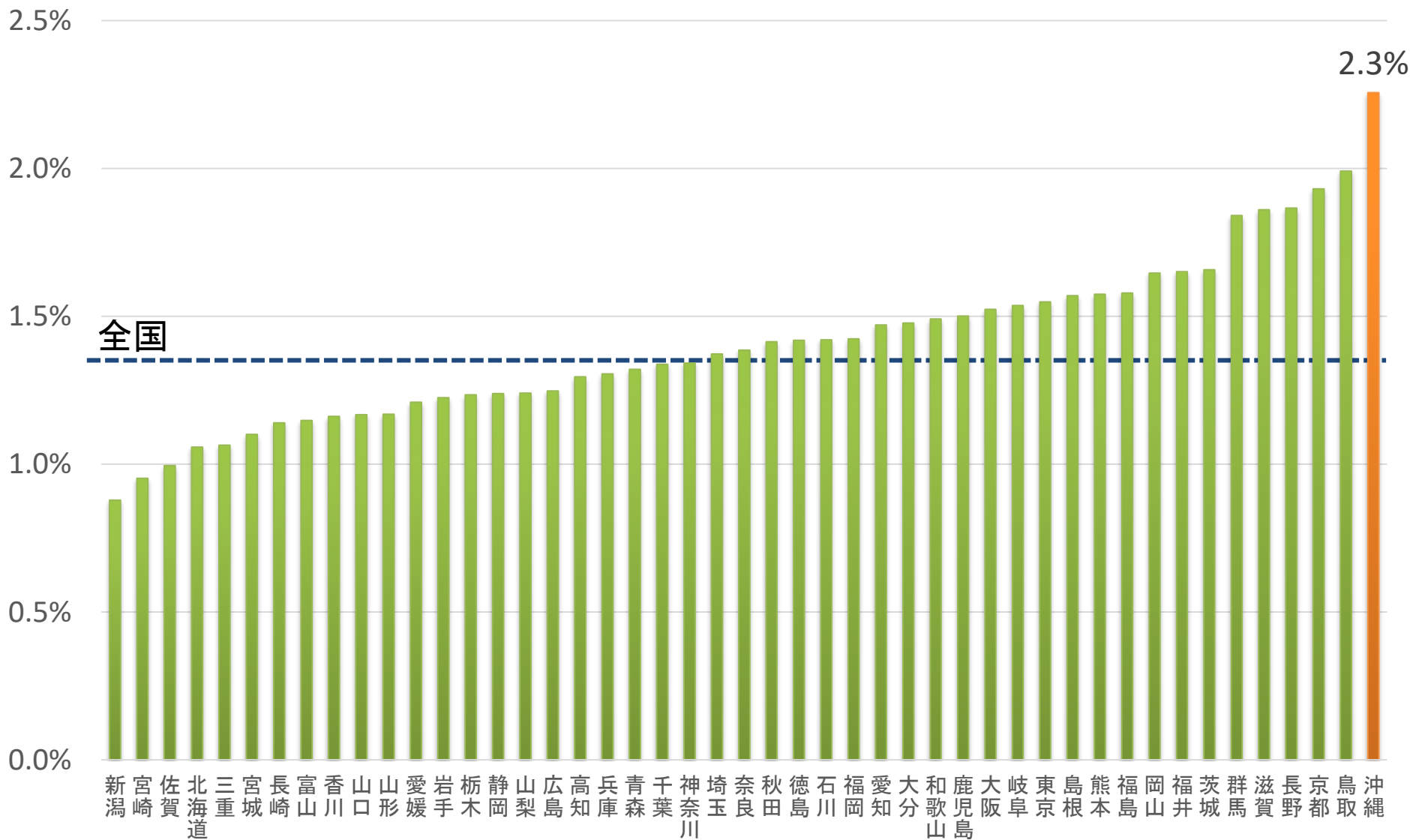
都道府県別にみる65歳時の有配偶率(男女)



都道府県別にみる療養病床と介護保険施設等定員数 (75歳以上人口千人対)



総外来受診数のうち時間外受診数が占める率 (都道府県別)



※ 平成26年医療施設(静態・動態)調査をもとに集計

沖縄県における感染症危機管理の特性

県民の暮らし

- ・ 家庭、個人
- ・ 学校、通所施設
- ・ 企業、事業者

とくに考慮すべき様態

介護施設等

感染拡大と重症化のリスクが高く、感染対策は難しい。

離島・へき地

医療資源が限られており、患者搬送にも限界がある。

環境要因

高齢化の急速な進展

外国人観光客の増加

国際貨物取扱量の増加

地球温暖化の進行



30代・台湾人男性

【主訴】 発熱、咳嗽、発疹

【既往症】 生来健康

【現病歴】 来院5日前から発熱あったが、数日で解熱したため2日前に沖縄旅行へ来ている。同日から咽頭痛、鼻汁があった。来院当日から悪寒と発熱あり解熱鎮痛薬を内服した。さらに体幹部の発疹に気づいたため、当院救命救急センターを受診した。

【現症】 BP 110/80mmHg, PR 105/min, RR 16/min, BT 38.2°C, SpO2 98%(室内気), GSC 15。眼球結膜に軽度充血あり, 咽頭腫脹なし。胸腹部に異常所見なし。頭頸部～体幹に癒合する発疹あり。

3月19日

23:22

受付

23:42

看護師によるトリアージ（問診）

3月20日

00:02

初期研修医による診察

#発熱

咽頭後壁リンパ濾胞あり、インフルエンザ検査する。

#紅斑

膨疹ではなく、掻痒感ない。

発熱との因果関係ははっきりしないが、関連あるとすれば麻疹、風疹、その他ウイルス性の発疹が考慮される。

またEVE、解熱剤によるアレルギーが原因として考えられる。

ポララミンして経過をみる。

01:33

救急スタッフにて麻疹疑いとなる

01:41

患者を陰圧隔離室に移動させる

台湾からのトラベラー。(3月21日に帰国予定)

上気道症状+発熱(2峰性)+本日からの発疹。

結膜充血あり。頬粘膜に1mm大の白色斑点3箇所(コップリック斑?)あり。

顔面～頸部にかけては癒合している発疹。

体幹部(胸腹部)の発疹は癒合無しの鮮紅色米粒大。

→麻疹が疑われる。隔離。感染症ラウンド。

3月1日～4日 タイ旅行

3月14日 発熱あり

3月17日

08:40 タイガーエアにて那覇着

09:30 ゆいレール利用（旭橋～おもろまち）して観光
牧志公設市場で夕食

21:00 国際通りでショッピング

3月18日

10:00 ゆいレール利用（旭橋～美栄橋）

レンタカーにて糸満市と北谷町を観光
アメリカンビレッジで夕食

3月19日

11:00 古宇利島を観光

名護のショッピングモール
うるま市内で夕食
発疹出現

23:20 県立中部病院救急医療センター受診

想定されうる事態

この患者が受診しないまま帰国していたら

- ア) そもそも症状が軽かったら
- イ) もっと市販の感冒薬が効いていたら
- ウ) 医療費支払いに躊躇していたら

受診したとしても診断されずに帰されていたら

- ア) 医師が見逃していたら（とくに発疹出現前）
- イ) 本人が検査に協力的でなかったら
- ウ) 本人が隔離に協力的でなかったら

初発例（外国人観光客）における未解決の課題

夜間休日も含めた「緊急」医療通訳の必要性

電話通訳でよいので多言語対応の窓口が必要

法的拘束力を伴わない外出自粛の実効性

誰が外出自粛を求めるのか？ 責任の所在は？

航空券等のキャンセルによる費用負担の問題

協力を求める場合には何らかの補償も検討すべき？

入院適応を認めない場合の宿泊先の確保

コテージ型の宿泊施設の提供？ 隔離目的の入院？

発生早期のリスクミ 医療機関から行政に求めたこと

麻疹感染を疑うべき状況について、明確に県民に伝えること

- ア) 麻疹の症状（上気道症状と発熱、発症時に発疹はない）
- イ) 確定患者との接触を疑うべき時間と場所
- ウ) 予防接種歴の重要性（通常は2回接種していれば大丈夫）

感染を疑うときに、どう行動すべきかを県民に伝えること

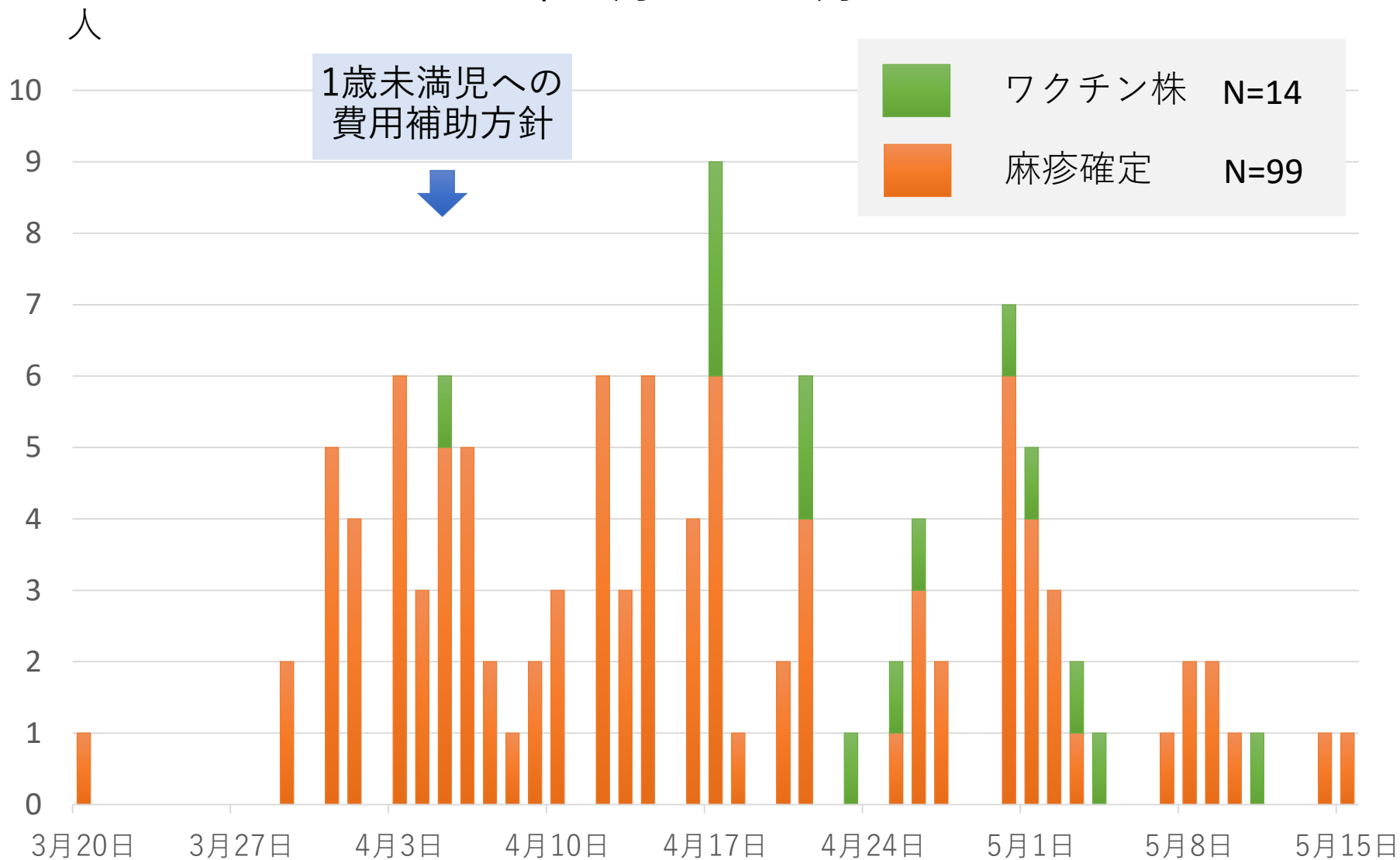
- ア) 医療機関に電話をかけ、その指示に従って受診すること
- イ) 受診にあたっては、公共交通機関を利用しないこと
- ウ) あらかじめ母子手帳で予防接種記録を確認しておくこと

診断した患者への対応について、医療機関と調整すること

- ア) 独居／旅行者である場合に生活／滞在支援をどうするか
- イ) 夜間を含めた電話相談の窓口をどうするか
- ウ) 外出自粛の解除について誰が判断するのか

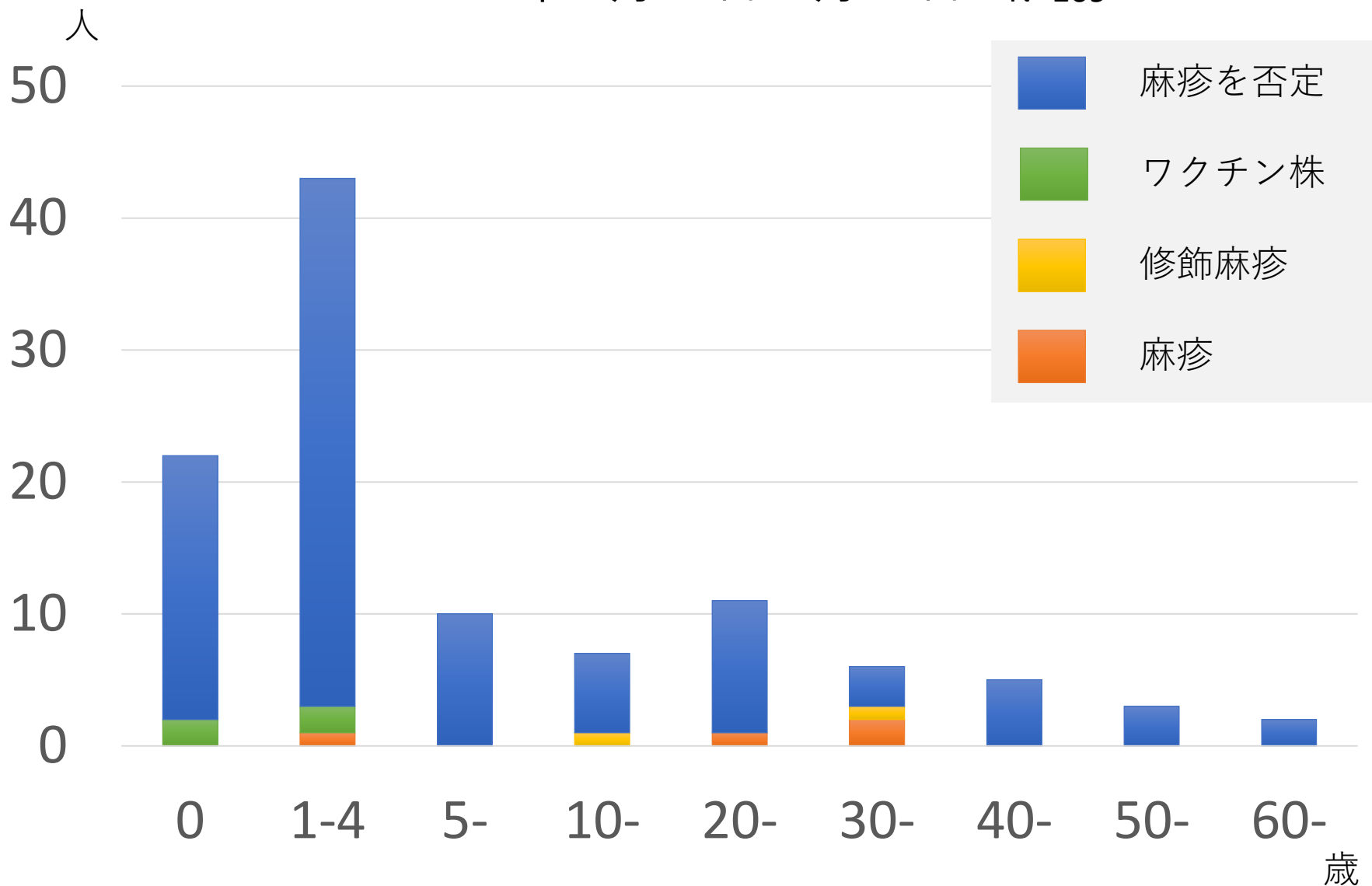
沖縄県における麻疹アウトブレイク（検査日）

2018年 3月20日-5月15日



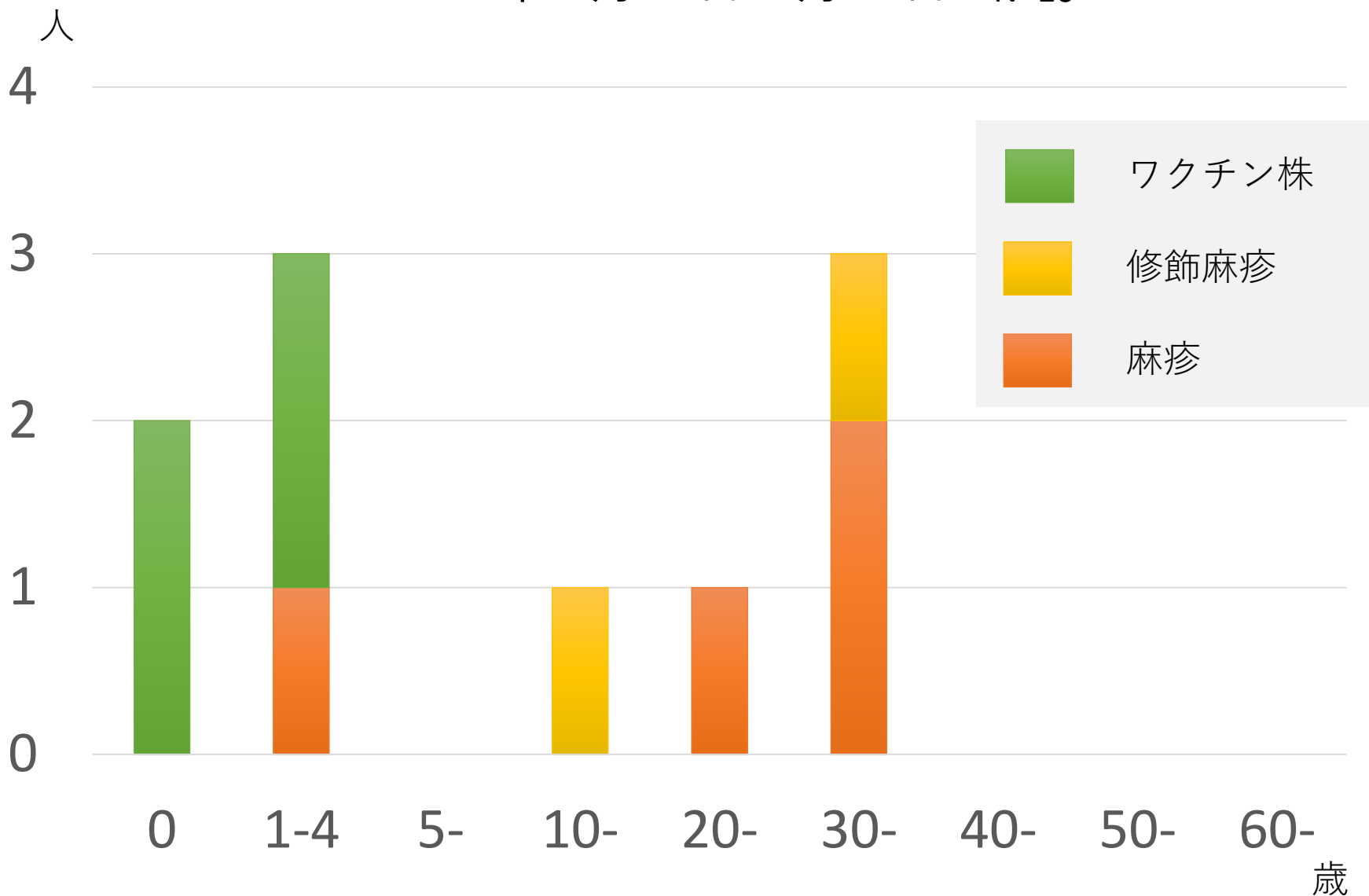
沖縄県立中部病院を受診した「麻疹疑い」患者

2018年 3月20日-5月21日 N=109



沖縄県立中部病院を受診した「麻疹」患者

2018年 3月20日-5月21日 N=10



麻疹診療の9割は・・・

「麻疹もどき」への対応である

沖縄県立中部病院を受診した「麻疹」患者

2018年 3月14日-5月21日

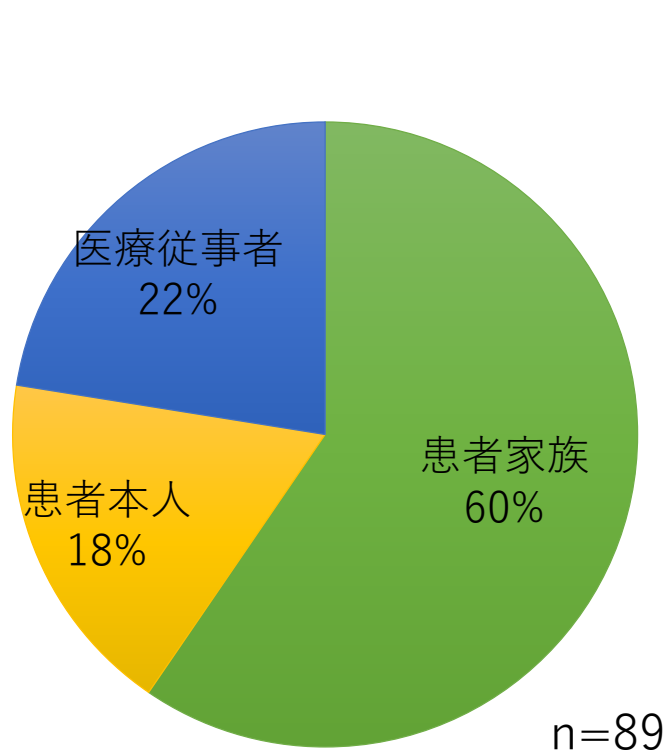
| 接種日 | 発症日 | 初診日 | 病型 | 年齢 | 発熱 >37.5℃ | 発疹 | 上気道 症状 | コプリッ ク斑 | 接種 回数 |
|-----|------|-----|-------|----|--------------|----|-----------|------------|----------|
| / | 3/14 | +5 | 麻疹 | 32 | + | + | + | + | 不明 |
| / | 3/27 | +1 | 麻疹 | 33 | + | + | + | + | 0 |
| / | 4/12 | +2 | 修飾麻疹 | 31 | + | + | - | - | 不明 |
| -7 | 4/17 | +4 | ワクチン株 | 1 | + | + | + | - | 1 |
| -7 | 4/18 | +2 | ワクチン株 | 0 | + | + | + | - | 1 |
| / | 4/22 | +5 | 麻疹 | 20 | + | + | + | + | 0 |
| / | 4/28 | +5 | 麻疹 | 1 | + | + | + | - | 1 |
| -7 | 4/30 | +1 | ワクチン株 | 0 | + | + | + | - | 1 |
| -10 | 5/7 | +2 | ワクチン株 | 3 | + | + | + | - | 1 |
| / | 5/10 | +1 | 修飾麻疹 | 17 | + | + | + | - | 2 |

これからの麻疹診療では・・・

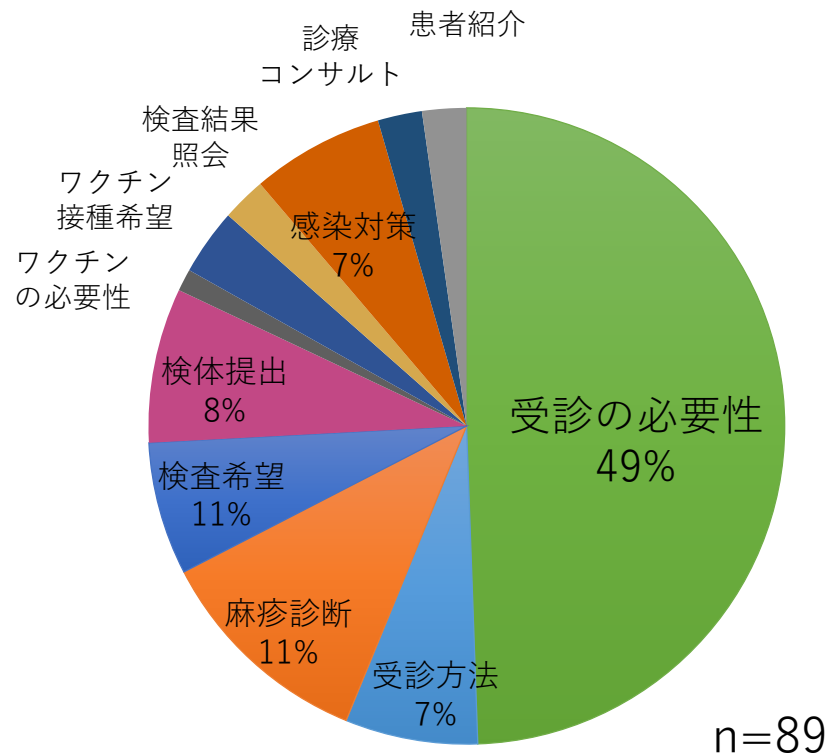
修飾麻疹とワクチン麻疹が相対的に増加することが想定され、対応方針を明確にしておく必要がある。

沖縄県立中部病院で対応した電話相談

2018年4月20日～5月25日



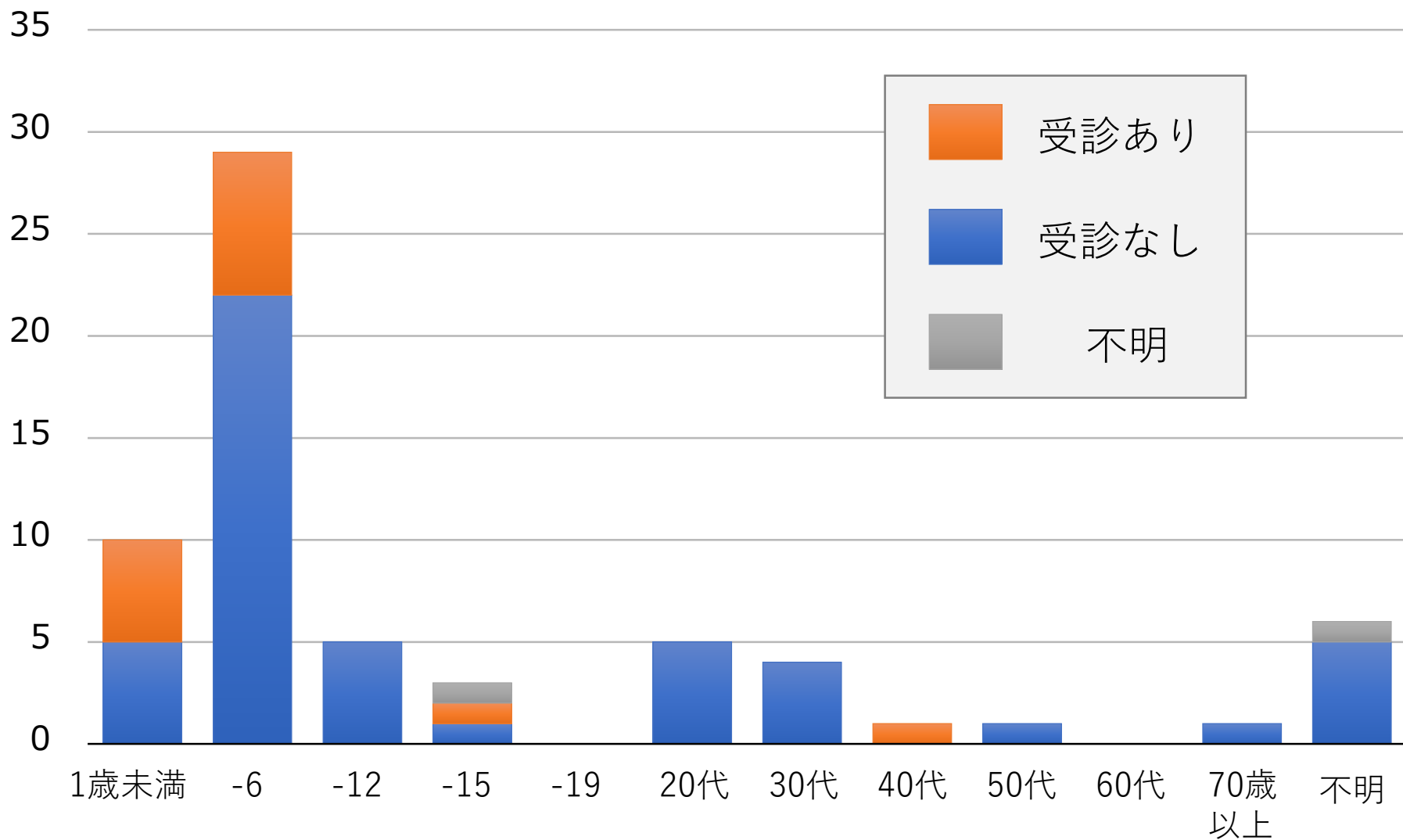
相談者



相談内容

受診に関連した相談後の受診行動

2018年4月20日～5月25日



感染拡大防止と重症化予防における課題

1 歳未満に対する麻疹ワクチン推奨の必要性

効果と被害、コストのバランスはどうだったか？

県内で何人の感染者が確認されたら推奨するのか？

麻疹ワクチン 1 回接種世代への適切な情報提供

重症化予防は奏功したが、感染拡大防止は十分か？

1 回接種世代へのキャッチアップが残されている

診療所外来と病院救急の不明瞭な役割分担

封じ込めるのであれば、診療の集約化も検討すべき？

ワクチン接種希望者と発熱患者との分離はできたか？

感染症セーフティネットの構築に向けて

日常的な感染症に対する臨床能力を向上させること

日常的な感染症についてのセンスが高まれば、いつもと異なる感染症についても見抜けるようになる。

新興・再興感染症の診断能力を向上させること

どのようなときに新興・再興感染症を疑い、診断のために何をすべきかを医療現場が理解しておく。

新興・再興感染症の感染対策が適切に実施できること

新興・再興感染症について適切な感染対策を実施できるようにならなければ、住民を守ることはできない。

おわり